

## 第一問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

(宇都宮輝夫「死と宗教」)

都合により省略







## 第二問

次の文章は、物語の一節である。「男」には、同居する「女」(もとからの妻)があつたが、よそに新しい妻をもうけた。その新しい妻を家に迎えることになり、「男」は「女」に、しばらくどこかに居てほしいと頼んだ。以下は、「女」が家を出て行く場面である。これを読んで後の設問に答えよ。

「今宵なむものへ渡らむと思ふに、車しばし」

となむ言ひやりたれば、男、「あはれ、いづちとか思ふらむ。行かむさまをだに見む」と思ひて、いまこゝへ忍びて来ぬ。

女、待つとて端にゐたり。月のあかきに、泣くことかぎりなし。

我が身かくかけはなれむと思ひきや月だに宿をすみはつる世に

と言ひて泣くほどに來れば、さりげなくて、うちそばむきてゐたり。

「車は、牛たがひて、馬なむはべる」

と言へば、

「ただ近き所なれば、車は所せし。さらば、その馬にても。夜のふけぬさき」

と急げば、いとあはれと思へど、かしこには皆、あしたにと思ひためれば、のがるへうもなければ、心ぐるしう思ひ思ひ、馬引き出ださせて、簀子に寄せたれば、乗らむとて立ち出でたるを見れば、月のいとあかきかげに、ありさまいとささやかにて、髪はつややかにて、いとうつくしげにて、丈ばかりなり。

男、手づから乗せて、ここかしこひきつくるふに、いみじく心憂けれど、念じてものも言はず。馬に乗りたる姿、かしらつきいみじくをかしげなるを、あはれと思ひて、

「送りに我も参らむ」

と云ふ。

「ただこもとなる所なれば、あへなむ。馬はただいま返したてまつらむ。そのほどはここにおはせ。見ぐるしき所なれば、人に見すべき所にもはべらず」

と言へば、「さもあらむ」と思ひて、とまりて、尻うちかけてゐたり。

この人は、供に人多くはなくて、昔より見なれたる小舎人童ひとりこねりわらひを具して往ぬ。男の見つるほどこそ隠して念じつれ、門引き出づるより、いみじく泣きて行く。

〔堤中納言物語〕

〔注〕 ○かしこには——新しい妻のところでは。

### 設問

(一) 傍線部ア・イ・オを現代語訳せよ。

(二) 「いみじく心憂けれど、念じてものも言はず」(傍線部エ)を、必要なことばを補って現代語訳せよ。

(三) 「いみじく心憂けれど、念じてものも言はず」(傍線部エ)を、必要なことばを補って現代語訳せよ。

第三問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

余友劉伯時、嘗見淮西士人楊勛。自言中年得異疾、每發言必  
答、腹中輒有スル小聲効チ之。數年間、其声浸大。有道士見而驚曰、  
「此レ心虫也。久不シク治、延ヒキテ及妻子。宜シク讀ム本草。遇ハバ虫所レ不レ應者ニ当ニ  
取服之。」C如ク言。讀ミテ至レバ雷丸。虫忽チ無シ声。乃頓ニ餌セバ數粒。遂愈。余始メ  
未ダ以テ為シ信。其後至長江、遇フ一丐者。亦有是疾。環而觀者甚衆。因リテ  
教ヘテ之使メ服セ雷丸。丐者謝曰、「某貧無他技。所以求ムル衣食於人者、  
唯借ル此耳。」

(『続墨客揮犀』による)

〔注〕 ○淮西——淮水の西方。いまの河南省南部。 ○本草——薬材の名称・効能などを記した書物。  
○長汀——いまの福建省長汀県。 ○丐者——ものい。

### 設問

〔一〕「毎<sub>レ</sub>発<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>応<sub>レ</sub>答、腹<sub>中</sub>輒<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>声<sub>レ</sub>効<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>」(傍線部 a)を、平易な現代語に訳せ。

〔二〕「宜<sub>レ</sub>読<sub>レ</sub>本<sub>レ</sub>草。遇<sub>レ</sub>虫<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>応<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>当<sub>レ</sub>取<sub>レ</sub>服<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>」(傍線部 b)とは、どういふことを言っているのか、わかりやすく説明せよ。

〔三〕空欄 c にあてはまる、「如<sub>レ</sub>言」の主語を、文中から抜き出せ。

〔四〕「丐<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>謝」(傍線部 d)とあるが、「丐<sub>レ</sub>者」はなぜ「謝」したのか、「謝」の意味を明らかにして、わかりやすく説明せよ。